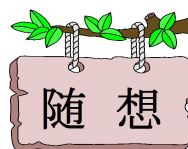




第154号
平成30年12月3日
能代市教育委員会
学校教育課

創刊 昭和42年10月10日
題字 元能代市教育長 鎌田 宏



「夢にいどみ 人と和す」

第五小学校長

石川 智也

「夢にいどみ 人と和す」本校の校訓です。創立百二十周年時に作成委員会を作り制定しました。校訓の候補は他にもいくつかあり

ました。「夢きらら 共に学ぶ子」「大望 和順」「大志 仁愛」

などですが、本校の歴史を貫いてきたものが「希望」と「夢」で、そのために必要な「和」「思いやり」を表現すること。不易であること。子どもにもわかること。言いやすいリズムであること。などを基準に考えました。

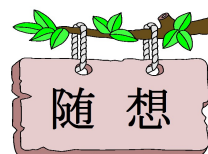
子どもたちには「夢」を「自分ができるようになって嬉しいこと」としてとらえ、将来の職業や、大人になって実現したいことその他、勉強して覚えたこと、できるよ

うになりたい技、など、広い意味での目標やめあてとして示しています。「人と和す」は文字通り友達と仲良く、協力して生活していくことと話しています。

校庭に、本校卒業生が寄贈した「夢の翼像」があります。校訓と当時の子どもたちの思いを元に制作しました。二羽の白鳥の翼を背

に、空を見つめる少女の像で、協力し合いながら、未来を夢見て羽ばたく姿を現しています。

孤独の中で目標を見失い、挫折したり、自暴自棄になったりする若者のニュースを耳にする度に、心が暗くなります。本校の子どもたちには、校訓を忘れず、未来に希望を持ち、たくましく羽ばたいていってほしいと願いつつ、退職までの日々を過ごしています。



「体験のすばらしさ」

二ツ井小学校長

簾内 正子

10月末の日曜日、本校グラウンドで能代市の星空観察会があった。その日は雨天だったが、奇跡的に雨が上がり星を観察することができた。次々に親子でやってきて地域おこし協力隊の方によるカシオペア座や天の川のお話を聴いて星空に親しんだ。親子で星空観察をすることは子どもにとって忘れられない体験になる。

3年生が校外学習で馬子岱の山林へ出かけた。地域の方々がたくさんいて、ブルーシートを敷いた休憩場所や作業の道具が準備万端整えられている。青空が木々の間から覗いて気持ちのよい日である。地域の方々の協力により、年数回森林作業を体験させてもらっている。

その日はキノコの植菌体験だった。一人一人がほだ木にたねゴマを打ち込む。説明を聞いて、右手に木槌、左手にたねゴマを持って、「では、始めてください」の声で一斉に打ち込み始めた。そのときの音が、何だろう、心を揺り動か

輝きの一場面



「響け511の歌声 Do my best !」
H30. 10. 14 第四小学校

す響きだった。南国の民族楽器のようないわゆる深みのある音。子どもたちはそれぞれたねゴマ打ちに一生懸命で気付いていないかもしれないが、空に響く心地よい木の音が感性を形づくる一つのタネとして心に記憶されたにちがいない。

学校は家庭環境による体験の格差を小さくする役割があるといわれる。子どもたちには、地域に密着した多様な体験を通して感性の根っこを太らせてほしいと願っている。